

生理用品設置に向けての活動報告

旭川志峯高等学校生徒会 武藤伶奈

【活動の目標】

旭川志峯高校において、女子生徒が生理期間も過ごしやすい環境をつくること。

【活動内容】

- 2023年12月 女子トイレに生理用品を設置
(旭川市 「ハート繋がるプロジェクト」より提供)
- 2024年2月 旭川市の制度(ハートつながるプロジェクト様)を活用して生理用品を設置
／生理用品を設置している施設の実態を知る。
- 3月 生理用品設置校(旭川市立中央中学校様/旭川情報ビジネス専門学校様)訪問
ハートつながるプロジェクト終了
- 6月 高校用での1カ月間のナプキンの試験設置開始
- 7月 試験設置終了
アンケート実施、まとめ
- 2025年1月 ロータリークラブ様 資金援助のお願い

【生理の影響による課題】

- 本校での課題
 - 生理用品を自由に入手できないこと
 - 今後継続的に設置することで生理用品の全てを学校に頼る必要があること
- 社会的な課題
 - 生理の貧困
 - 整理に関する情報の少なさによる「個人レベルの問題」と捉える意識
 - 生理痛やむれなどによる不快感

【今後の展開】

1. 生徒主体の持続可能な体制づくり
 - ① 生徒の視点から解決策を考え提案しやすい環境づくり
 - ② 学校生活への当事者意識の向上
2. 旭川市の私立高校への波及活動
地域レベルで物事を捉え、広域的な問題解決に繋げるために、多様な主体と連携をし支援の輪を広げる。
3. SDGs（持続可能な開発目標）を意識した活動
 - ① 「貧困をなくそう」
 - ② 「すべての人に健康と福祉を」
 - ③ 「ジェンダー平等」SDGs を意識した活動に展開することで学校全体の社会貢献への意識を高める

【資金の活用】

- ① 生徒の声を聞きながら生理用品を常備し、すべての生徒のニーズに対応すること。
- ② 生地用品を設置する場所を衛生的に保ち、使いやすいように工夫すること。
- ③ 本プロジェクトの趣旨を生徒に適切に理解していただき、タブーをなくすオープンな取り組みにすること。

【まとめ】

トイレに生理用品を設置することで、緊急的に必要になった場合保健室に申し出る負担をなくすことや生徒の安心感につながると考える。また、「常にあること」に意味があると考え、必要な時に生理用品を手にとることができる持続可能な活動にしたい。

現在の課題の解決に近づくためには、女子生徒がより快適に生理期間を過ごすために生理用品を継続的に設置するための体制整備を行うことや、必要な生徒が適切に生理用品を手に入れられるような体制にするために本活動の趣旨を適切に理解してもらうためのオープンな活動を展開することがある。

今後も高校内において女子生徒の学習環境を整える本活動を継続することで、「女性の福祉」を意識した社会全体へと波及するような活動にしていきたいと考える。